

本院で造影 CT 検査を受けられた患者さん・ご家族の皆様へ

～造影 CT 検査（平成 30 年 4 月から令和 7 年 4 月まで）に受けられた画像データの
使用のお願い～

【研究課題名】

造影 CT における至適撮像条件および画像再構成法の確立

※ 造影剤とは、画像診断の際に画像にコントラスト（白黒の差）を付けたり、特定の臓器を強調するために患者さんに投与される医薬品です

【研究の対象】

この研究は以下の方を研究対象としています。

2018 年 4 月から 2025 年 4 月までに造影 CT 検査を受けられた方

【研究の目的・方法について】

造影 CT 検査は、がんや血管の病気を見つけたり詳しく調べたりするために欠かせない検査方法です。この検査では、造影剤という薬を使うことで、通常の CT では見えにくい病変（びょうへん：病気の過程であらわれる人体の局所的な変化のこと）や血管の状態をよりはっきりと確認することができます。しかし、この検査にはいくつかの課題があります。

まず、造影剤の効果には個人差があります。例えば、患者さんの体格や体重によって造影剤の効き方が変わるため、全員に同じ量を使うわけにはいきません。そのため、患者ごとに最適な投与量を決める必要がありますが、その基準がまだ完全には整備されていません。また、撮影するタイミングも重要で、病変や血管を最もよく映し出せるタイミングを選ぶ必要があります。しかし、このタイミングの判断は診療放射線技師の経験に頼る部分が多く、客観的な基準が求められています。

さらに、安全性と効果を両立することも課題です。造影剤を早く注入しすぎると血管に負担が増えたり、副作用のリスクが高まったりします。一方で、遅すぎると病変がうまく映らないことがあります。また、放射線被ばく量をできるだけ減らしながらも、高品質な画像を得る方法を模索する必要があります。

この研究では、造影 CT 検査の質を向上させるために、患者さんごとの体格や状態に応じた投与量や撮影タイミングについて科学的に検証し、最適な基準を作ることを目指しています。例えば、体型や体重に合わせた造影剤の量を計算する方法や、自動的に撮影タイミングを判断するシステムの開発などがその一例です。また、造影剤の使用量を適切に調整することで、副作用のリスクを減らしつつ医療費も抑えることが期待されています。

このような取り組みによって、安全で効率的な造影 CT 検査が実現すれば、患者さんへの負担が軽減されるだけでなく、より正確な診断につながります。これからの医療現場で重要な役割を果たす研究となることを目指しています。

研究期間：2025 年 6 月 16 日～2030 年 3 月 31 日

【使用させていただく診療データについて】

本院におきまして、造影 CT 検査を受けた患者さんのデータを使って研究を行っています。この研究では、造影剤の量や撮影するタイミングが臓器の映り方によどのような影響を与えるかを詳しく調べています。具体的には、患者さんの画像データや採血データ、医師の診断結果などを使用して検証を行います。

なお、本研究に患者さんの画像データや採血データ等を使用させていただきますことについては、本学医学部倫理委員会において外部委員も交えて厳正に審査・承認され、大分大学医学部長の許可を得て実施しています。また、患者さんの診療情報は、国の定めた「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に従い、特定の個人を識別できないよう加工したうえで管理しますので、患者さんのプライバシーは厳密に守られます。当然のことながら、個人情報保護法などの法律を遵守いたします。

【使用させていただく情報の保存等について】

画像データの保存は論文発表後 5 年間、診療情報については論文発表後 10 年間の保存を基本としており、保存期間終了後は紙媒体の診療情報についてはシュレッダーにて廃棄し、パソコンなどに保存している電子データは復元できないように完全に削除します。

【外部への情報の提供】

本研究で収集した情報を他の機関へ提供することはありません。

情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

大分大学医学附属病院 医療技術部 放射線部門 岩田直浩

【患者さんの費用負担等について】

本研究を実施するに当たって、患者さんの費用負担はありません。また、本研究の成果が将来医薬品などの開発につながり、利益が生まれる可能性がありますが、万一、利益が生まれた場合、患者さんにはそれを請求することはできません。

【研究資金】

本研究においては、大分大学医学部附属病院医療技術部研修経費を用いて研究が行われます。

りえきそうはん
【利益相反について】

この研究は、上記の公的な資金を用いて行われ、特定の企業からの資金は一切使いません。「利益相反」とは、研究成果に影響するような利害関係を指し、金銭および個人の関係を含みますが、本研究ではこの「利益相反（資金提供者の意向が研究に影響すること）」は発生しません。

【研究の参加等について】

本研究へ画像データおよび診療情報を提供するかしないかは患者さんご自身の自由です。従いまして、本研究に診療情報を使用してほしくない場合は、遠慮なくお知らせ下さい。その場合は、患者さんの診療情報は研究対象から除外いたします。また、ご協力いただけない場合でも、患者さんの不利益になることは一切ありません。なお、これらの研究成果は学術論文として発表することになりますが、発表後に参加拒否を表明された場合、すでに発表した論文を取り下げることとはいたしません。

患者さんの診療情報を使用してほしくない場合、その他、本研究に関して質問などがありましたら、主治医または以下の照会先・連絡先までお申し出下さい。

【研究組織】

	所属・職名	氏名
研究責任者	大分大学医学部附属病院 診療放射線技師長	吉田 幸人
研究分担者	大分大学医学部附属病院 主任診療放射線技師	岩田 直浩
	放射線医学講座 教授	浅山 良樹
	大分大学医学部附属病院 診療放射線技師長技師	上川 洋平
	大分大学医学部附属病院 診療放射線技師長技師	汐月 剣志
	大分大学医学部附属病院 診療放射線技師長技師	谷本 大河
	大分大学医学部附属病院 診療放射線技師長技師	伊東 来夢

【お問い合わせについて】

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住 所：〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘 1-1

電 話：097-586-6010

担当者：大分大学医学部附属病院 主任診療放射線技師

岩田直浩（いわた なおひろ）